

## 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果

## 伊達市教育委員会

○平成27年4月21日（火）に実施した平成27年度全国学力・学習状況調査の北海道における参加状況は、下記のとおりである。

	学校数	児童生徒数
小学校	1,076校	42,068人
中学校	606校	40,966人

○伊達市は、星の丘小・中学校を除いた、小学校9校の6年生 270人、中学校4校の3年生 270人が参加した。

○教科に関する調査内容は、小・中学校とも下記のとおり5教科である。

- ・小学校 主として「知識」に関する問題：国語A・算数A  
主として「活用」に関する問題：国語B・算数B  
：理科
- ・中学校 主として「知識」に関する問題：国語A・数学A  
主として「活用」に関する問題：国語B・数学B  
：理科

○生活習慣や学習環境等に関する調査内容は、下記のとおりである。

- ・児童生徒質問紙調査
- ・学校質問紙調査

○結果分析については、北海道教育委員会が㈱東京書籍に委託して分析を実施した。

それを受け、伊達市の結果分析を実施し、課題を整理した。

○概要

### ●小学校

- ・平均正答率について、算数A・算数Bが全国を下回っており、国語A・国語B・理科が全国、北海道とほぼ同じ結果となっている。

### ●中学校

- ・平均正答率について、数学A・数学Bが全国をやや下回っており、国語A・国語B・理科が全国、北海道とほぼ同じ結果となっている。

## I 分析と課題

### 1 教科

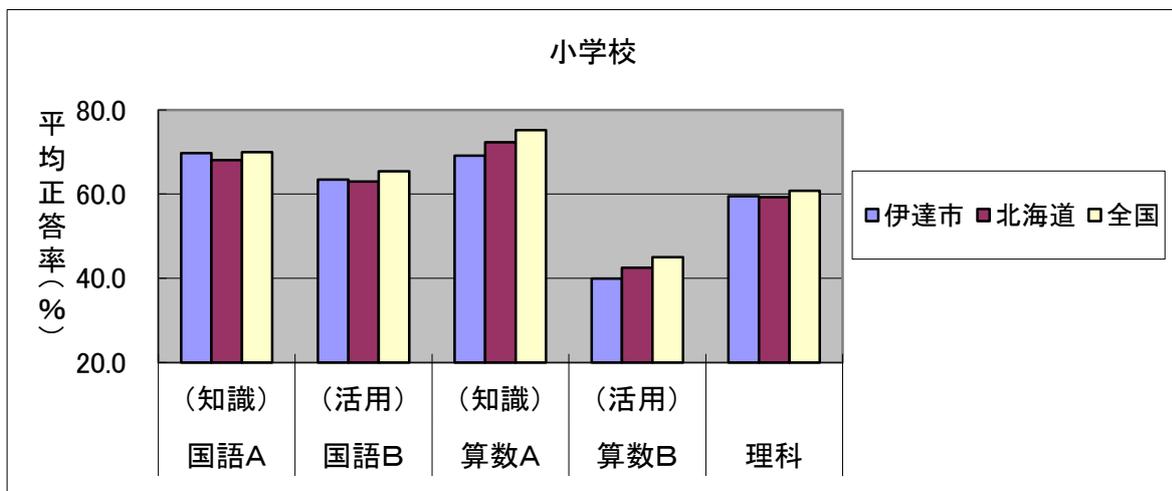
#### (1) 小学校

- ・平均正答率について、5教科いずれも全国より下回っているが、国語A・国語B・理科が全国、北海道とほぼ同じ結果となっている。
- ・平均正答率の推移において、平成26年度と比較し、全国との差が国語A・国語Bは縮まった。
- ・学習指導要領による領域別の平均正答率において、18領域中、7領域（算数A：数と計算、量と測定、図形、算数B：数と計算、量と測定、図形、数量関係）が全国平均を下回っており、8領域（国語A：書くこと、読むこと、国語B：書くこと、読むこと、算数A：数量関係、理科：エネルギー、生命、地球）が全国平均をやや下回っていることから、各領域における課題の整理・確認と課題解決に向けた指導改善が必要である。

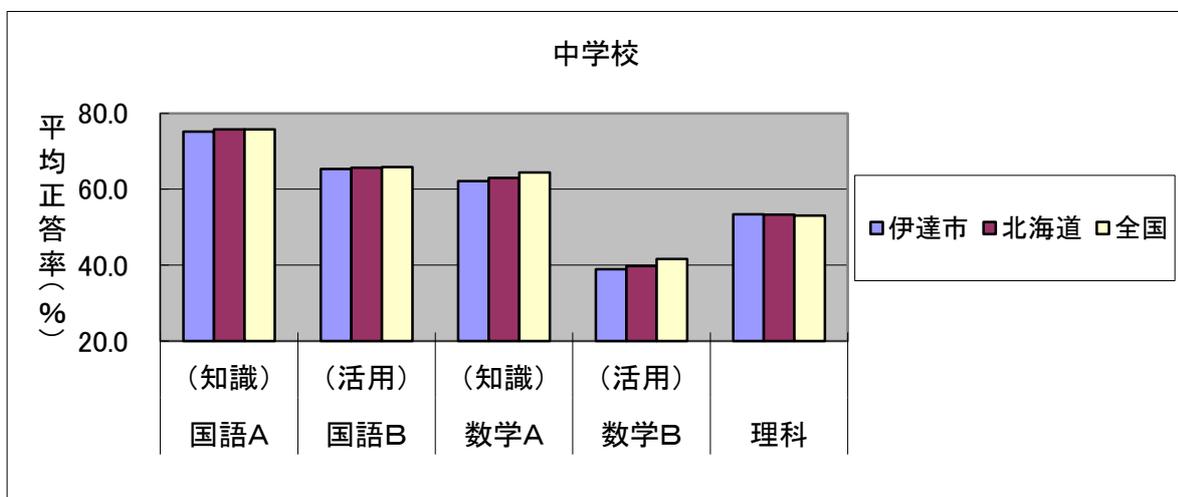
#### (2) 中学校

- ・平均正答率について、数学A・数学Bが全国をやや下回っており、国語A・国語B・理科が全国、北海道とほぼ同じ結果となっている。
- ・平均正答率の推移において、平成26年度は全ての科目が上回っていたが、平成27年度は国語A・国語B・数学A・数学Bが全国より下回った。
- ・学習指導要領による領域別の平均正答率において、18領域中、5領域（数学A：数と式、算数B：数と式、図形、関数、資料の活用）が全国平均を下回っており、2領域（数学A：関数、資料の活用）が全国平均をやや下回っていることから、各領域における課題の整理・確認と課題解決に向けた指導改善が必要である。

- ・領域別状況：全国を100とした場合、伊達市及び北海道の状況
- ・平均正答率：単位%

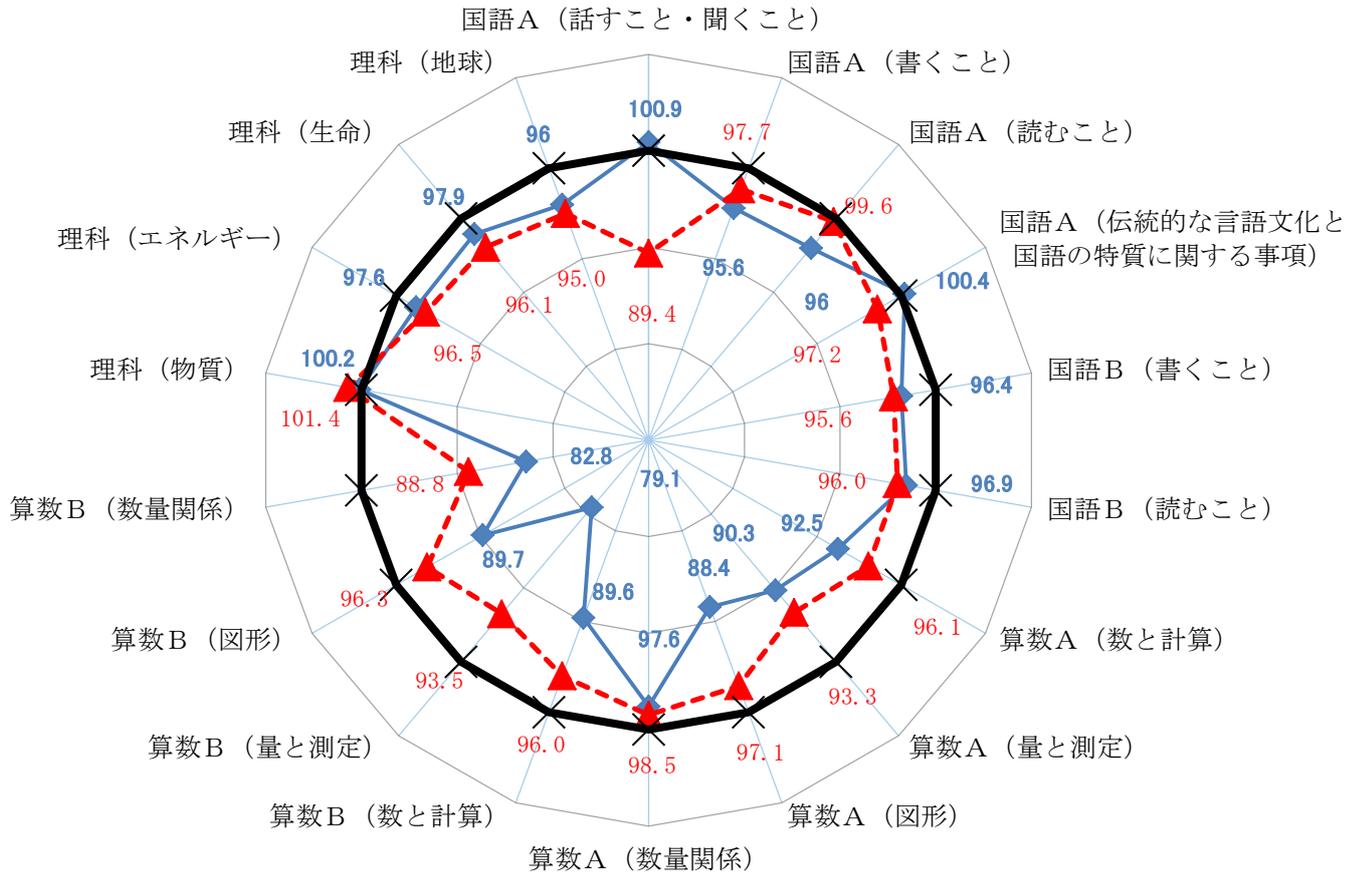
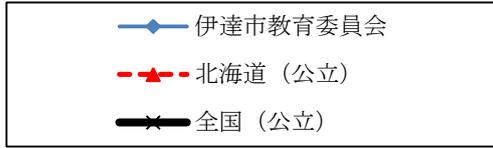


	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
	(知識)	(活用)	(知識)	(活用)	
伊達市	69.7	63.4	69.1	39.9	59.5
北海道	68.1	63.0	72.3	42.5	59.3
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
比較：伊達市-全国	△ 0.3	△ 2.0	△ 6.1	△ 5.1	△ 1.3

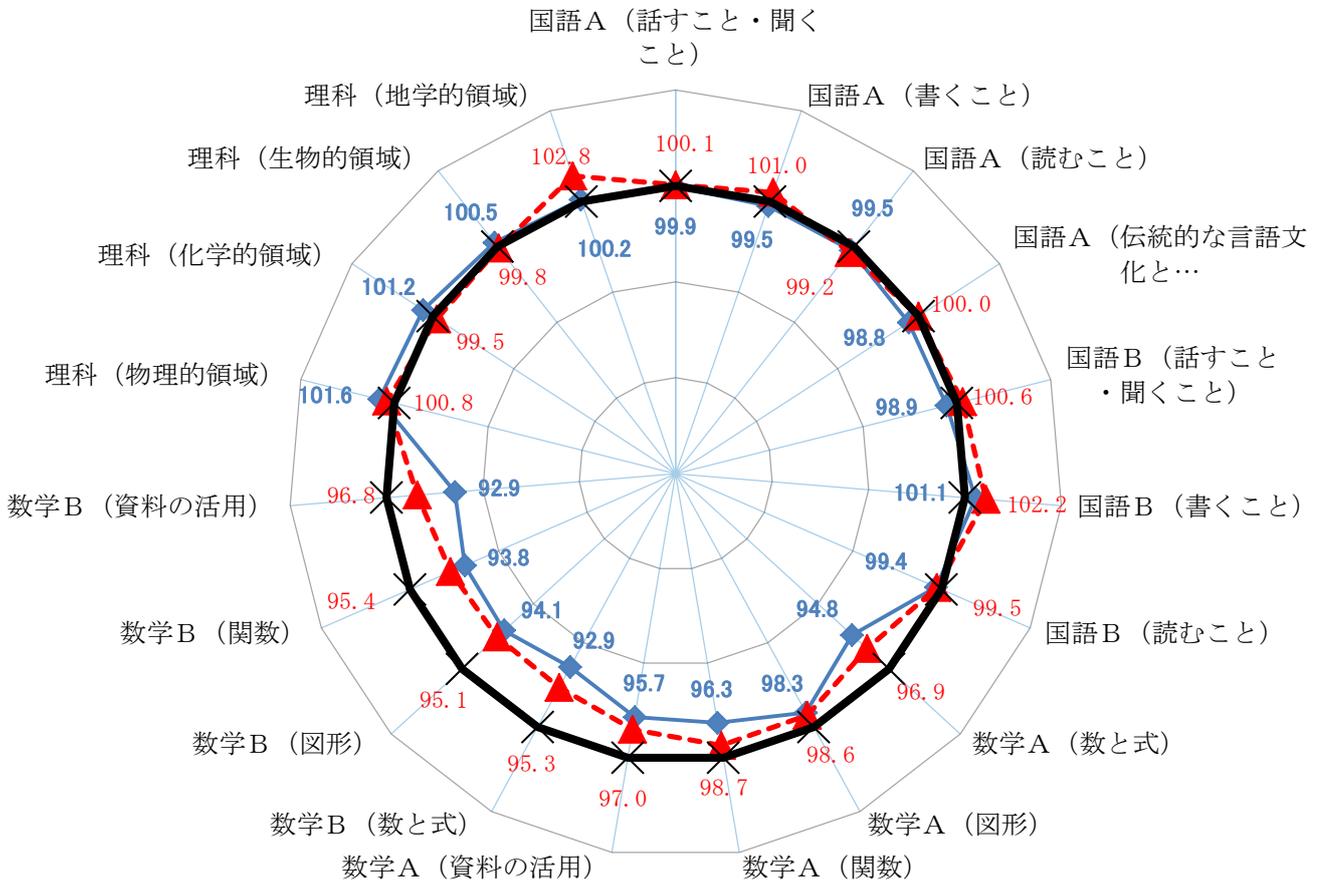
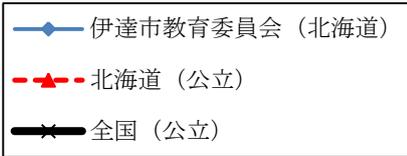


	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
	(知識)	(活用)	(知識)	(活用)	
伊達市	75.2	65.3	62.1	38.9	53.4
北海道	75.8	65.7	63.0	39.7	53.3
全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
比較：伊達市-全国	△ 0.6	△ 0.5	△ 2.3	△ 2.7	0.4

# 小学校



# 中学校



## 2 児童生徒質問紙調査

### (1) 小学校

- ・全国と比較し、自尊意識、規範意識が低いことから保護者と連携して自尊意識、規範意識を育てる必要がある。また、家庭での学習習慣について、保護者と連携した生活指導が必要である。
- ・全国と比較し、「算数の勉強が好き」や「国語・算数の授業の内容はよく分かる」と答えた児童が少ないことから授業の工夫改善が必要である。

### (2) 中学校

- ・全国と比較し、自尊意識、規範意識が低いことから保護者と連携した自尊意識、規範意識について生活指導が必要である。また、家庭での学習習慣について、保護者と連携した生活指導が必要である。
- ・全国と比較し、「数学の勉強が好き」や「国語・数学の勉強は大切だと思う」と答えた生徒が少ないことから授業の工夫改善が必要である。

## 3 学校質問紙調査

### (1) 小学校

#### ①国語

- ・学校は、全国と比較し、「発展的な学習の指導を行った」や「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った」、「漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行った」、「補充的な学習の指導を行った」と答えた割合が低いことから改善が必要である。

#### ②算数

- ・学校は、全国と比較し、「補充的な学習の指導を行った」や「発展的な学習の指導を行った」と答えた割合が低いことから改善が必要である。

#### ③理科

- ・学校は、全国と比較し、「補充的な学習の指導を行った」や「発展的な学習の指導を行った」、「実生活における事象との関連を図った授業を行った」と答えた割合が低いことから改善が必要である。

#### ④家庭学習

- ・全国と比較し、児童質問紙調査では「家で、学校の宿題をしている」と答えている児童はやや多いが、学校質問紙調査では「(国語) 家庭学習の課題(宿題) 与えた」について児童に十分に出していないとなっており、認識に差が見られる。
- ・全国と比較し、「(国語・算数とも) 前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った」にもかかわらず、「(理科) 前年度までに、家庭学習の課題(長期休業の課題除く) について、評価・指導を行った」については十分に行っていないとなっている。保護者と

連携した家庭学習の課題の評価・指導について、共通理解が必要である。

## (2) 中学校

### ①国語

- ・学校は、全国と比較し、「前年度までに、補充的な学習の指導を行った」や「発展的な学習の指導を行った」割合が低いことから改善が必要である。

### ②数学

- ・学校は、全国と比較し、「補充的な学習の指導を行った」と答えた割合が低いことから改善が必要である。

### ③理科

- ・学校は、全国と比較し、「前年度までに、発展的な学習の指導を行った」や「実生活における事象との関連を図った授業を行った」、「自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行った」と答えた割合が低いことから改善が必要である。

### ④家庭学習

- ・全国と比較し、生徒質問紙調査では「家で、学校の宿題をしている」のはほぼ同じであり、学校質問紙調査では「(国語・数学とも)前年度までに、家庭学習の課題(宿題)」について生徒に十分に出していないとなっており、認識に差が見られる。
- ・全国と比較し、「(国語・数学とも)前年度までに、保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った」、「(国語・数学とも)前年度までに、家庭での学習方法等の具体例を挙げながら教えた」については十分に行っていないとなっている。保護者と連携した家庭学習の課題の評価・指導について、共通理解が必要である。